

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2073400539		
法人名	社会福祉法人おらが会		
事業所名	おらがの里		
所在地	長野県上水内郡信濃町柏原348-1 (電話) 026-255-1180		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】 (平成20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 2人, 非常勤 7人, 常勤換算 8.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	～ 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費10,000円
敷金	有( ) 円	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成20年11月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	3	要介護 2	5
要介護 3	1	要介護 4	0
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 85 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・信濃町立信越病院	・丸山歯科医院
---------	-----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

訪問時は冬で、周りの山々も雪化粧で道路脇には雪が積もっていた。雪が消えることで春を肌で感じ、また、春への期待感もますます強くなっていくのであらうと感じられた。敷地内に法人の特養、デイサービスがあり、すぐ近くには町立の病院がある。ホームと連携がもたれていることから入居者・家族にとっては心強く、また安心して生活が出来る場所となっている。町の避難場所にも指定されており、災害時には町の老人の受け入れなどをする方針があり、地域で中心的な役割を担っている。ふとした仕草の中で見られる表情が穏やかで、入居者の職員への信頼感と満足感を垣間見ることが出来た。現状の入居者、職員共に支えあう安定した生活を更に継続的に送ることが出来るよう望みます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 課題として上げられた介護計画の見直しについてはその後モニタリングを毎月行い、三ヶ月に1回行っている。状態が変化した場合には随時変更している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	職員全員が自己評価を行った。項目ごとの職員の意見が色々あり、お互い勉強になった。5回目と言うことから惰性に流されないように注意しながら行った。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は三ヶ月に1回定期的に行われているが、推進委員のメンバーが少ないように思われる。委員の方々の都合もあり毎回出席を願うことが出来ないのであれば多数の方に委嘱していただくことも良いのではないかと思われる。議題もホームの生活を向上させていけるような内容にし委員の方々から建設的な意見を聞くのも一案かと思う。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会はないが、新年会、忘年会、夏祭りなどホームの行事に多くの家族の方々に参加していただいている。家族のホームへの訪問時には多く会話をするように声を掛け、要望や苦情などを収集している。意見などは定例会議等で職員に伝え改善している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 特養・グループホームの敷地が地域の避難場所に指定されていることから、防災訓練は地域住民と合同で行われている。グループホームとして地域の行事への参加は積極的に行っているが、ホームへ地域の方々をお誘いするような取り組みもしていただきたい。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	発足当時の理念が重要事項説明書に掲げられている。地域密着型サービスとしての内容が盛り込まれていないが、パンフレットには「住み慣れた地域での生活の継続……」と記してある。ホームとしては地域密着は当面のこととして受け止めているように感じられた。	○	改めて地域密着の内容を盛り込んだホーム独自の理念を解り易く作成することも考えていただきたい。職員のみならず地域の方々へ発信することもホームを理解していただける手段になるものと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づく具体的な標語を5通り作成し、一カ月ずつかえて、毎日の申し送りの後、職員全員で唱和している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学校・保育園との交流が行われている。運動会等に招待され出かけている。地域の文化祭の作品見学などを行っている。地域のボランティアの定期的な来訪も多い。	○	出来るならば隣組に参加していただき、回覧板等により情報をやり取りすることにより地域の行事への参加が更になるのではないかと思われる。ホームで行われる「夏祭り」にも住民の方々が参加していただけるよう考えていただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で5回目の自己評価になる。初めの頃に比べると惰性に流れる面もあったが、職員全員が自己評価に参加した。大変難しいと思う項目もあり、気づきの場面もあったと感想として述べられていた。外部よりの意見は、自分たちの普段気づかない点を知らされるので改善に役立つ機会となっている。		

おらがの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に1回開催されている。ホームの活動などの報告がされており、家族会のような感じで和気藹々と進められていることが窺えた。	○	運営推進委員会により多くの関係者の参加をいただき、ホームの課題・要望などを議題にし、委員の方々からの意見等を頂くことも必要かと思われる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場より入居希望者の紹介などを受けている。必要に応じて役場の意見などを聞いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年二回法人発行の「おらが庵」とグループホーム独自で毎月発行している「おらがの里だより」がある。請求書などとともに毎月家族のもとへ送られている。各入居者担当の職員による近況報告も一緒に届けられている。家族にとっては安心出来る便りとなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新年会、夏祭りなどの際に家族の方々に参加をお願いし、職員と会話をする機会を作っている。家族の方々からの要望など直接職員に伝えられることが多い。家族の要望等を随時話し合い、運営に役立てている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特養・デイサービスの事業を法人は行っている。出来る限りグループホームの職員の異動をしないよう配慮がされているが、反面職員に多くの経験を積んでもらうための異動も考えている。やむを得ない異動の場合、引継ぎを充分に行い対処している。		

おらがの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での全体研修が計画的に行われ、職員は経験や習熟度により段階的に参加している。外部の研修にも参加し、報告書を回覧したり、職員会議で内容報告したり発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	過去に交換交流をした経験がある。期間を1週間で行ったが大変だったとのことである。過去の反省などから今年度は交流が見送られている。	○	過去の経験をもとに無理のない他のホームの見学などを計画し、職員が交代で出かけることも必要ではないかと思われる。職員の自信・気づきにも繋がるものと思われるので可能な範囲で実施していただきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人のデイサービス利用より入居につながった例もある。家族と共にホームへきていただき、雰囲気を感じてもらい決めている。入居者全員が町の方々なのでなじみの関係作りも出来やすい。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	言葉の使い方やしきたり、野菜の作り方、料理方法など入居者の方々から教えてもらうことがある。昔の話や古い歌を聞かされることもあり、気持ちが癒されることが多い。		

おらがの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦が家族よりの聞き取り調査で行われている。顔の表情や行動からも思いを汲み取り対応している。地域柄かあまり表情を表に出さない入居者もおられるが、職員とのやり取りで優しい表情になるという。信頼と安心の関係が出来ている現われと感じられた。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の一人ひとりに担当者を決めケアプランを作成している。作成したものを会議にかけ、他の職員や管理者の意見を聞き決定している。担当者を決めることにより職員一人ひとりの観察力が養え、自己啓発にもつながっているものと思われた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に1回見直しをしているが、前回の評価での助言を受け、毎月モニタリングを行っている。状態が変化した場合は随時変更している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	原則病院への付き添いは、家族へお願いしているが、都合がつかない場合は、職員が付き添い受診している。法人のデイサービスの行事などに参加する事もある。		



おらがの里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が町の出身者であり、協力医療機関の町立病院がかかりつけ医となっている。ホームとは歩いて行ってもあまり時間のかからない近距離にあるので家族の方々も安心していている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の方針として現在は看取りは行っていない。協力医療機関の町立病院との連携が出来ているので、入居者・家族には不安はあまり感じられない。今後は法人として方針を考えていきたいという。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	耳の遠い方への声掛けは耳元で優しく話しかけていた。声を大きくするだけでなく、表情豊かに対応していた。個人の情報のファイルは事務室に保管され、職員は個人情報保護法への理解や秘密保持について十分な対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	地域柄、冬の間は雪が多いので（転倒して骨折など）あまり外出は出来ないが、雪がなくなるとその日のお天気でお昼を食べに外出したり、ドライブに出かけたりしている。時間の決まりをつくらないようにし、個別性のある支援を行っている。		

おらがの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	やわらかめのご飯と普通のご飯というように、入居者の好みに応じて調理されている。りんごにしても皮付きのいい方、すったものもいい方、皮をむいたものを食べる方と色々だが、それぞれに対応して美味しく頂いている。誕生日に家族と一緒に出かけ外食をする入居者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に最低2回は入浴していただくようにしている。予定日、予定時間以外の要望があればいつでもそうようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の誕生日にはお茶の時間に全員でケーキをいただきお祝いをしている。雪が解けると畑仕事を出来る範囲でし外気にあたっている。洗濯物を干したり畳んだり、各入居者のできることで役割りを持っていただけるよう支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬は雪も多く道路も凍りやすいので、事故・転倒等を避け、ホームと特養をつなぐ廊下で運動をしている。職員と入居者が一緒に食料品の買い物にスーパーまで行くこともある。夏場は入居者の意向にそっていつでも外出でき、遠出もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族より外出傾向があるからと鍵をかけることを提案されたこともあるが、鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間のみで昼間は施錠していない。職員の見守りと玄関のチャイムで入居者の気配を察知している。		

おらがの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回、夜間と昼間の訓練が行われている。うち1回は地域住民も参加し、特養・デイサービスと合同で実施されている。敷地内が地域住民の避難場所にもなっている。地域住民が約50名ほど参加している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の栄養士が作成した献立に基づき調理している。同じ料理を入居者の状態に応じて食べやすい形にして提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館床暖房が施されている。自然な暖かさが保たれていた。リビングには炬燵がつくられていて、昼寝をしている入居者の姿も見られた。居室に置かれたポータブルトイレも職員の手ですばやく処理されているのでホーム全体には臭いも感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室には洗面台が設置されている。個人個人の持ち物も家庭より持ち込まれ、各入居者好みの居室作りがされている。一昨年ノロウイルスが流行した時に居室にポータブルトイレを設置し感染予防に努めた。また置くことで入居者の排泄の失敗も少なくなり、排便・排尿の確認等にも繋がった。		

※  は、重点項目。